

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立東朋中学校
最終更新日	2021年(令和3年)2月15日	

<b>I 福山市</b>	<p><b>ミッション</b> 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p><b>ビジョン</b> 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&amp;倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
--------------	---

<b>II 中学校区</b>	<p><b>前年度学校関係者評価の主な内容</b></p> <p>○地域の願いを聞き、小中9年間で地域に役立つ人材を育ててほしい。 ○地域と協力し、子供達を地域の行事に積極的に参加させてほしい。 ○いじめ、長欠児童への対応など、子供達をとりまく諸問題について、今後も真摯に向き合い、解決に向けた取組を継続してほしい。</p>	<p><b>児童生徒の現状</b></p> <p>○「子ども主体の学び」に向けた取組が進められており、自ら進んで課題に取り組もうとする姿が見られるようになっている。その一方で指示を待ったり自ら考えて行動したりしなかったりする場面も見受けられる。 ○児童会・生徒会による合同あいさつ運動や体育大会・運動会の交流などを通して、児童生徒のつながりがもてつつある。 ○就寝、起床時刻、朝食、メディアに取り組んだが、メディア関係の時間が他の項目と比較して課題が大きい。</p>	<p><b>育成する力</b> 21世紀型“スキル&amp;倫理観”</p> <p>○課題発見・解決能力 ○コミュニケーション能力 ○チャレンジ精神(自己効力感) ○思いやりと感謝の心(地域貢献)</p>
	<p><b>めざす子ども像</b> (義務教育修了時の姿)</p> <p>○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる</p>	<p><b>中学校区として統一した取組等</b></p> <p>○子ども主体の学びづくり ○あいさつ運動や地域ボランティアなど、小中での主体的な活動の充実 ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「11住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実</p>	

<b>III 自校</b>	<p><b>ミッション</b></p> <p>社会に貢献できる自立した生徒(=「自立貢献」の生徒)の育成</p>	<p><b>育成する力</b> 21世紀型“スキル&amp;倫理観”</p> <p>課題発見・解決能力 コミュニケーション能力 チャレンジ精神(自己効力感) 思いやりと感謝の心(地域貢献)</p>
<p><b>学校教育目標</b></p> <p>自立貢献の生徒の育成</p>	<p><b>めざす子ども像</b></p> <p>よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす 互いを認め、よりよい人間関係を形成する 自分に必要な挑戦を選択してやってみる 人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる</p>	
<p><b>現状</b></p> <p>&lt;児童生徒&gt; ○「学校生活で達成感や喜びを感じる。」割合が、89%であるのに対し、「自分には良いところがある。」と思っている生徒は、79.5%で、自分に自信が持ち切れず自己肯定感が伸び悩んでいる。 ○相手の気持ちを想像する力が弱く、相手との距離感も分からず、生徒間トラブルは少ない。 ○「ボランティア活動に参加したことがある」生徒割合は約88%である。しかし、与えられた枠組み内で活動しており、真の主体性を発揮する余地がまだある。</p> <p>&lt;授業&gt; ○「授業が分かる」生徒割合は84%であるが、「授業で考えることが面白い」生徒割合は70.9%と開きがある。生徒が主体的に思考する場面を作り切れていない。 ○「授業が分かる」と答えた生徒は、各教科平均で83%で、前年と変化がない。教科間の差がみられることにも課題がある。</p>	<p><b>研究</b></p> <p>教科等 全教科、特別活動 主題・内容等 「生徒が主体的に学ぶ授業の創造」～授業づくりと学習集団づくりを通して～</p> <p><b>めざす授業の姿</b></p> <p>○すべての生徒が、自分なりの学びに向かえる授業 ・生徒が、授業の見通しを持ち、学ぶ内容が知的で面白そうと思える授業 ・生徒が、自分なりの考えを表現し、皆と一緒に学ぶから勉強がよく分かる、学ぶ活動そのものが楽しいと思える授業 ・生徒が、充実感や有能感を実感し、学びから得られたものが嬉しいと思える授業</p>	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立東朋中学校

年 目	中期経営目標	重点 分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
						□指標に係る取組状況	力の達成 評価評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力の達成 評価評価	総合 評価	改善方策	
4	主体的に学ぶ授業づくりを進め、確かな学力をつける	★ 継続	課題を発見し、仲間と協力して解決しようとする“学びに向かう力”の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教科領域において課題発見・解決学習を取り入れた授業展開の構築</li> <li>学習班や生活班を効率よく活用した学習活動</li> <li>模擬授業等による研究推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業で考えることが面白い」85%以上</li> <li>「授業が分かる」90%以上</li> <li>「授業で、自分の考えは認められている」85%以上</li> <li>研究部を中心とした授業提案、研修を各学期実施</li> <li>生徒の主体的な学び(学力の伸び率)の分析</li> </ul>	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオによる授業記録を行い、校内研修に活用する。その際、考えさせる発問を検討し授業改善につなげる。</li> <li>校内研修とともに教務・研究部で定期的に授業観察を行い、助言をする。</li> <li>「学力の伸び調査」の分析を研究部中心に行い、各教科の弱点を分析し、授業で取り上げ習得させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業で考えることが面白い」61.4% (+3.8) 「授業がわかる」80.1% (+1.6) 「自分の考えは認められている」68.0% (+2.7)。前回と比較して、目標には達しなかったが肯定的回答が約3%上昇。</li> <li>教務部と研究部の連携により2、3学期で校内にて2回、校区単位で2回授業提案と研修を実施。</li> </ul>	3	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もビデオによる授業映像記録を分析し、改善点を出し合う研修を来年度も組み込む。</li> <li>「学力の伸び調査」で課題となった思考力養成に向けて、授業の組み立て、発問・指示の在り方について日常的に教員間で議論し共有していく。</li> </ul>
			読書に親しみ、根拠を基に自分の考えを示すことができる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書本を活用した授業づくり</li> <li>通年での奨励図書紹介と定期的な全校読書週間の実施</li> <li>図書委員会による読書感想文コンクールの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語、総合的な学習等における調べ学習等の活用率25%以上</li> <li>毎月の推薦本の紹介及び年間2つ以上の読書週間</li> <li>「1週間に1回以上図書室を利用する」50%以上</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学年総合で調べ学習を実施</li> <li>対面式、グループ協議等ができない状況により実施されず。</li> <li>図書館増設を経て、現在「週1回以上図書室を利用する」8.3%。推薦本の紹介に図書委員会が取組予定。</li> <li>現在は開館時間帯を、13:10から15分間 確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書委員の活動による推薦本の紹介(図書だより)を11月以降実施。</li> <li>図書委員会提案の「読書週間期間」を設け本を読む楽しさを学ばせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書に対する関心を高める取り組みとして図書委員会による図書だよりを12月に発行。</li> <li>図書委員会主催の読書週間を1月～2月末まで設定。各学級で点検し、読書活動を促進した。</li> </ul>	3	3	3
3	自己肯定感・自己有用感を向上させる	★ 継続	校内外ボランティア活動の推進による積極性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と教職員でボランティア計画を作成し、生徒への活動機会の情報提供</li> <li>ボランティア委員会が中心となり、学級、部活動の仲間とともに主体的にボランティア活動に参加できやすくする工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ボランティア活動に参加したことがある」85%以上</li> <li>ボランティア活動への参加延べ人数年間 1200人以上</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内で実施可能なボランティア(11月実施の「おやじの会」など)部活動単位で参加者を募り、参加人数を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「積極的に参加している」44.0%(-2.1) 「おやじの会」ボランティアでは、154名、1月の校内資源回収に125名(-8名)の生徒が参加があった。コロナ禍の中でPTAとの連携のもと、最大限の企画・運営を行った。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内で実施する週1回の朝ボランティアへの呼びかけをボランティア委員が中止となっており、参加人数を増やしていく。</li> </ul>
			生徒の個性の違い・努力を認める取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が考え、作り、守りながら成長していく生徒指導規程への見直し</li> <li>学級活動における具体的な役割の設定と評価の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分にはよいところがある」85%以上</li> <li>「学校生活で達成感や喜びを感じる」90%以上</li> </ul>	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で、対話の場を積極的に設定し、肯定的な評価を行う。</li> <li>生徒会が企画した「日々の活動を撮影し、元気を集める取組」を支援する。</li> <li>学活交流を異学年で実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よいところがある」68.9%(-0.6)。学年を超えて、活動の機会が増えた3学年は、9月の75.9%から83.8%に増えた。</li> <li>「達成感や喜びを感じる」82.9%(+2.4) 新型コロナ対策を取り組みながら、合同マラソン練習などの生徒会主体による活動の機会を増やすことで、学校生活で達成感を感じる生徒が増えた。3年生は、先輩としての姿を認められることで、「よいところがある」と感じた生徒が83.8%に伸びた。</li> </ul>	3	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナ対策を取り組みながら、生徒主体の活動の機会を増やしていく。</li> <li>学級活動や生徒会活動、生徒指導規程の見直しを継続して行う。</li> </ul>

4	自ら、体づくりや健康づくりに取り組む生徒・職員を育てる	★ 継続	健康の維持増進に向けた取組の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>保体委員会が主体となった健康づくり活動の充実</li> <li>保健便り等を活用した啓発活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「その日の内に寝て、睡眠7時間以上及び朝食をとった」生徒 85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「睡眠7時間以上」75.2%、「朝食をとった」92.0%となり併せて83.6%</li> <li>30名の生徒が朝食をとらずに登校している</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>保体委員会が全校生徒に生活リズムの調査を行い、健康面の向上に向け情報発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「その日のうちに寝て、睡眠時間7時間以上」75.2%</li> <li>保体委員会を中心に動画制作や免疫力向上週間設定により生活リズムの改善に働きかけた。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の協力が得られるように、懇談や頼り等で、生活リズムの改善の必要性を伝えていく。</li> </ul>
			働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の業務改善による、計画的な業務の遂行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤務時間外在校時間が月45時間以内の職員100%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活休業日については毎回、職員朝会で確認した。</li> <li>4～9月の6カ月で45時間以内の職員 75.0%</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が翌月の休業日の部活指導日を月末には45時間以内に収まる配分計画を立て、主任、主事が分掌業務とのバランスを点検する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土日の部活指導日を、前月に一括申告することで、ひと月毎の業務のバランスを各自が意識するようになり、11月56.5%12月70.8%、1月は83.3%に上昇している。</li> </ul>	3	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動指導日を、月単位で申請し、業務バランスを見直すことは今後も継続していく。</li> <li>業務の見通しを分掌のリーダーが持ち、月1回の単位でメンバーに示していく</li> </ul>
6	安全で安心できる学校を実現する	継続	生徒・保護者の学校満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の心に寄り添った生徒、保護者との相談体制の充実</li> <li>ホームページや学校・学年通信を通して学校生活の情報を発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安心して通っている」生徒95%以上</li> <li>「安心して通わせている」保護者95%以上</li> <li>「ホームページ」の更新年間24回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安心して通っている」89.6%、「安心して通わせている」92.6%。</li> <li>9月末にて、進路情報について5回、学校だより6回、学年通信は多い学年では10回の更新を行っている。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>年3回実施のQU結果に基づき面談やSCによる教育相談を充実させる。</li> <li>適宜、タイムリーに保護者への情報提供、更新に努め、ホームページの閲覧を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安心して通っている」88.3%(-1.3)、「安心して通わせている」94.7%。(+2.1)</li> <li>学校や学年からの情報を月に1回以上発信できた。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、ティリー、面談など相談体制を充実させる。</li> <li>集会ができにくいため、全校放送、学活、通信を通して、生徒が評価される内容を発信する。</li> </ul>